

創刊 75 周年企画
釧路新聞

未来への挑戦

釧根まちと企業

— 38 —

地域に根差す地元金融機関の地位を確立した
大地みらい信用金庫



地域に生かされ、地域の 信託、貸出金高1329 存立に役立って貢献してい 億円となり地域に根差す地 元金融機関としての地位を 確立している。また、自己 信用金庫は、根室を拠点と した根室信用金庫と、厚 資本比率は26・05%、20年 庫が2001年に合併し誕生 度で国内基準である4% を大きく超えて、今後の経 営環境の変化にも積極的に リアが根拠を拡大し20 対応できる水準を維持して いる。



独自性のある地域の情報サービス業として、
お客さまに高い満足を感じていただけるよう
進化を遂げていきたいと遠藤理事長

大地みらい信用金庫

根室市梅ヶ枝町3の15
電話 0153(24)4101
FAX 0153(24)2801
理事長 遠藤 修 一氏

ホームページ
<https://www.daichimirai.co.jp/>

根釧全域に営業エリア

もって、庶民のための金融機関として根室市（当時は根室町）に有限責任根室町信用購買販売組合（初代組合長・須藤公雄氏）が誕生した。厚岸町では37年、国民精神総動員運動が起る中、地元の産業は不振に陥り、中小事業者のための金融機関の設立が望まれた。海産物商賈の安部広治氏をはじめとする204人の地元有志が信用組合設立のために日々奔走し、翌年に保証責任信用組合が設立された（初代組合長・長谷川末吉氏）。

理事長の遠藤修一氏は「私たちは地域の皆さまから切実に必要とされたことによって誕生し、その存在を許されたことからスタートしている。お客さまから必要とされ、選んでいただけた存在か、選ばれるだけの価値を提供できているかを常に謙虚に、再確認しながら臨まねばならない」と強調する。

昭和に入ると、第一次大戦の反動とその後、満州事変以降の経済不況で組合経営は最大の危機を迎えるが、後に第5代根室信用組合組合長に就任する北村博氏を中心に危機を切り抜けた。終戦直前の45年7月には、根室市が壊滅的に破壊された大空襲で、すでに現



事業承継や資産承継などの相談業務に対応

「価値創造型金融」掲げる

93年に厚岸信用金庫第12代理理事長に就いた金澤勲氏は、「融資の際には自分の目と相手をつかりと見極めること」を徹底し、お客さまと地域の信頼こそが安定経営を支える力になるという信念で経営にあたっていた。94年に根室信用金庫第10代理理事長に就任した石山浩氏は「これからは選ばれた金融機関だけが存在を許される。厳しい競争時代の

の再興に寄与せん次第である」と、生死にかかわる危うい組合事務所が被災し、重要書類も焼失。北村組合長は爆撃の中、本店に駆け付けて状況の記録とともに「嗚呼、万事休す」「実に痛惜の至りなり」などと、耐え難い苦悩の表現を走り書きしている。しかし、そのような状況下でも、空襲の4日後には業務を再開し、「難事は幾多ありますが、吾らはこの場合こそ大奮起して努力をコソコソとじ地域とともにある信用金庫として、新しい胎動が始ま



伊藤哲也
常務理事

大越秀一
常務理事

森戸政弘
専務理事



岸部芳洋
常勤理事

横澤英俊
常勤理事

渡邊勝士
常勤理事



倉又一成
執行役員

中嶋和久
常務執行役員

牧本善志徳
常勤監事



谷 雅裕
執行役員

中出尚哉
執行役員

概要

▽設立 1916年5月▽出資金 7億2400万円▽預金残高 3802億円（2021年3月末）▽貸出金残高 1329億円（同）▽本支店23店
本店、中標津、羅臼、標茶、別海、蘭舞、釧路、釧路新橋、駅前（根室）、釧路東、桜ヶ岡、白糠、西春別、あけぼの（根室）、厚岸、松葉町、浜中、標茶、武佐、鳥取西、音別、りんどう（中標津）、札幌▽役職員 219人（同）

主な役員

▽理事長 遠藤修一▽専務理事 森戸政弘▽常務理事 大越秀一、伊藤哲也▽常勤理事 渡邊勝士、横澤英俊、岸部芳洋▽理事 宮原文憲、藤井景介▽常勤監事 牧本善志徳▽監事 伊藤喜美雄、小林強▽常務執行役員 中嶋和久（お客さまサポート部担当）▽執行役員 倉又一成（地域みらい創造センター部長兼札幌オフィス長）、中出尚哉（根室地区エリア統括店長兼本店長）、谷雅裕（厚岸地区エリア統括店長兼厚岸支店長兼松葉町支店長）



KONSEN魅力創造ネットワークとして「FOODEX・JAPAN」に出展

密な財務戦略と先見性ある経営で、根室信用金庫を大きく発展させるけん引役となった。第8代理理事長の北村博氏は、地域貢献事業として人材育成支援などを目的とした「財団法人根室しんきんふるさと振興基金」を創設するとともに、地域のシンクタンクとして、節目節目において常に積極的な役割を果たすため、地域果敢な施策を打ち出し、緻密な調査を長期的に調査、分析する「ビジネスレポート」を発行するなど、地域金融機関としての進化を図った。89年、多くの支店開設責任者として新規開拓の最前線に立つて奮闘し、足跡を残した大畑繁雄氏が第9代理理事長に就任。預金1000億円の達成とともに、地域に深く溶け込むことへの重要性を説きながら、高い健全性を誇る現在の財務基盤を築いた。

厚岸信用金庫は53年に本店を移転し、同年、霧多布出張所を昇格させ、支店第一号となる浜中支店を開設した。56年には真直出張所を開設し、営業基盤を拡充。59年には標茶町を営業地区に追加した。67年に第9代理理事長に就いた徳田外征雄氏は、厚岸町商工会の発起人や道立厚岸潮見高校設立に尽力するなど、厚岸町の発展に貢献した。72年には

任、「変革と挑戦」をキーワードに、第二の創業ともいえる新たなスタートを切った。

09年には本店の新築移転が行われた。新本店の5階に掛けられた「創造・気配り・挑戦」の掛け軸には北村理事長の経営に対する信念が託されている。

10年、大地みらい信用金庫発足から10周年を迎えた年、第12代理理事長に遠藤修一氏が就任する。遠藤理事長は地域の企業の価値向上や地域の活性化に向けた取組を、北村理事長が新理事長に就任、

01年3月10日、「大地みらい信用金庫が誕生した。北村理事長が新理事長に就任、

移転新築した厚岸支店

道央圏初出店の札幌支店

